

FY26 Q1 決算発表後に多かったご質問とご回答

全体

- Q 全体を通して一過性要因は何かありましたか。
- A 米国の関税還付が20億円弱ありました。この影響により、ライフケアの利益率は0.8ポイント、情報・通信で0.5ポイント程度、実態よりも高い数値となりました。なお、関税還付はQ1のみの一過性のもので、Q2以降は発生しない見通しです。
- Q 決算短信の開示に一部変更がありましたが、今までと何が違うのでしょうか。
- A 本Q1よりIFRS 18号を早期適用し、それに伴い、決算短信に営業利益を記載いたしました。また、併せてIFRS 18号にて新たに義務づけられた経営者が定義した業績指標（MPM: Management-defined Performance Measure）として「通常の営業活動からの利益」を記載しています。こちらは、決算短信補足資料や決算説明会資料にて以前から参考指標として開示していましたが、今回からMPMとして短信に記載を開始しています。なお、「通常の営業活動からの利益」と「営業利益」の違いは為替差損益（営業区分）と減損が含まれているか否かで、所謂コア営業利益に相当するのは為替損益などを含まない「通常の営業活動からの利益」となります。

情報・通信

- Q EUVブランクスの顧客ごとの需要の濃淡はありますか？
- A 顧客ごとには、あまり濃淡がなく、押しなべて需要が強まっています。ロジック向けについては2nm以細向けに位相シフトマスク（PSM）向けブランクスの出荷が増加しています。また、直近ではメモリーカー向けの出荷も増えており、HBMやDRAM向けの需要も伸びている模様です。
- Q Q1のEUVブランクス売上は20%台後半%伸びたとのことでしたが、ASPとボリュームどちらが牽引したのでしょうか。
- A ボリュームも伸びましたが、どちらかというと製品MIXの良化によるASP上昇が主にけん引しました。これは、PSM比率の上昇や、バイナリーマスクにおいて欠陥レベルの低い高価格帯のマスクの需要が高かったことが背景となります。
- Q Q1は2.5インチ売上が減っていないとの説明がありました。NAND価格の上昇などの影響でコンシューマ向けHDDの市況が変わってきているのでしょうか？
- A コンシューマ向けHDDの市況は特に変わっておらず、前年の売上水準によりYoYの増減率は上下しつつ、年間ベースでは-10%強のマイナスの見通しに変更はございません。
- Q ハイパースケーラーのAI投資が減速した場合、HDDへの影響リスクは何が考えられますか。

A ハイパースケーラーのAI投資の大部分はGPUやCPUなどの計算基盤向けであり、HDDへの投資額が占める割合は限定的と認識しています。そのため、仮にAI投資が減速した場合でも、HDD市場への影響は相対的に小さい可能性があります。HDDは幅広いデータ保存需要に支えられており、市場は一定のレジリエンスを有すると考えています。今後も顧客との対話を通じて動向を注視してまいります。

Q CUPOが期初想定しているよりも大幅に伸びたとのことですが、キャパシティに問題はないのでしょうか。

A CUPOは製品サイズが小さく、製造に必要なスペースや設備投資が比較的限定的です。加えて、生産設備の調達リードタイムも短いため、需要増加に応じて機動的な増産対応が可能であり、現時点で大きな供給制約は認識しておりません。

ライフケア

Q MiYOSMART iQの販売状況について教えてください。

A MiYOSMART iQは2025年11月頃より中国でソフトローンチを開始しました。Q1時点では販売国数が10か国に限定されているものの、中国市場におけるプラス成長に寄与しております。今後は順次販売地域を拡大し、年末までに約50か国への展開を予定しております。また、海外における1年間の臨床試験では、一部の被験者において近視進行が認められない結果が確認されました。近視進行抑制において非常に優れた臨床データを有しており、当社の近視マネジメント分野における競争力向上に寄与するものと考えております。

Q 内視鏡の戦略的オプション検討の発表をされましたが、その背景について教えてください。

A 内視鏡事業はこれまで、直近1年半ほど、収益性の安定化を図るべく製品ポートフォリオの選択と集中、工場の統廃合と、ステップを踏んで構造改革を実施してまいりました。これらの取り組みにおいて一定程度目的がたったこのタイミングで事業譲渡も含めた戦略的オプションの検討を開始することを決定いたしました。現時点においては、詳細は何も決まっておりませんが、本件に関し開示すべき重要な事実が決定された場合には、速やかに公表いたします。

以前の四半期と重複する質問については、掲載は割愛しました。よろしければ前年度Q1、Q2、Q3、Q4のFAQも併せてご参照ください。

- [FY25 Q1 FAQ](#)
- [FY25 Q2 FAQ](#)
- [FY25 Q3 FAQ](#)
- [FY25 Q4 FAQ](#)

以上

将来予測に関する記述

当社は、将来計画および業績見通しに関する情報の言及や情報開示を行う場合があります。

歴史的事実に関するものを除く全ての記述は、将来予測と見做される可能性があり、資料作成時点における経営者の想定や入手する情報に基づくものです。これには、為替や金利、国際情勢、市場動向や経済状況、競争環境、生産能力、将来における売上/収益性/設備投資/キャッシュ/その他の財務指標の状況、法的、政治的、または規制上の状況、臨床または研究開発能力、顧客の行動または商慣習、医療費償還制度、現在問題となっている新型コロナウイルスをはじめとする疫病や健康問題などの影響を含みます。当社はこうした情報の正確性または完全性を保証しません。また、新たな情報や将来の出来事などの結果を受けて、将来予測に関する記述を更新する義務を負いません。

お問い合わせ先:h-ir@hoya.com